

大雨等に伴う被害に対する事後対策について

気象災害対策 R 6 - 6
令和 6 年 9 月 2 4 日
農林総合研究センター

9月21日からの記録的な大雨により、能登地方を中心にほ場の浸水、土砂流入等の被害が認められており、安全を最優先に事後対策を徹底して下さい。

<要旨>

- 1 倒伏した稲では、穂発芽等による品質低下を防ぐため、ほ場の排水に努めるとともに、刈り遅れとならないように適期収穫に努める。
- 2 園芸品目は、長期の停滞水によって根腐れや根の機能低下、地上部の生育不良、落葉等の生理障害を生じやすいため、ほ場の排水を徹底するとともに草勢維持や病害対策に努める。
- 3 畜産では、畜舎に通じる道路や畜舎施設のライフラインの確認、畜舎周囲の排水路の点検整備、排水路の確保に努める。飼料作物では、収穫間近のものは収穫を見合わせ、ほ場の状況確認や排水対策、変敗防止の対策を講ずる。

<各農作物等の対策>

1 水稻

- ・河川からほ場や用排水路に土砂が流入し、水路を阻んでいる場合は、土砂を排除し、用排水路を確保する。
- ・成熟期に達しているものは胴割粒の発生が懸念されるので、速やかに刈取りをする。
- ・倒伏して穂が地面についているものは、穂発芽が発生しやすいため、排水溝の整備などにより速やかな排水に努める。
- ・倒伏した稲で収穫時期が近いものは、速やかに排水し、ほ場を乾かして、できる限り早く収穫する。
- ・倒伏や穂発芽等により米の品質低下が明らかな圃場では、被害を受けていない圃場とは分別して収穫・乾燥を行う。
- ・収穫後4時間以内に乾燥機に搬入し、直ちに通風乾燥を行う。
- ・乾燥作業は通風乾燥から始め、徐々に加温し穀温が40℃以下で乾燥作業を実施する。特に、急激な乾燥は胴割れ等の品質低下の危険性が大きいので行わない。

2 大豆

- ・浸水したほ場では、ほ場内や排水溝の停滞水を無くすため、できるだけ早く溝の流入土砂の除去や溝の手直しを行い、必要であれば新たな排水溝の設置を行う。
- ・長期の滞水は、生育遅延や根腐れを引き起こすので、速やかな排水対策を徹底する。

3 野菜・花き

野菜・花きは長時間の停滞水に弱く、根腐れや根の機能低下から地上部の生育不良を生じやすく、病害の発生を招きやすい。

〈施設栽培〉

- ・通路等に停滞水がないよう、表面排水に努める。
- ・湿害による根腐れで草勢の低下が著しい場合は、液肥の葉面散布や摘果、摘葉を行い草勢の回復に努める。
- ・施設内が過湿となりやすいため換気に努めるとともに、病害が発生しやすいので、予防防除を行う。

〈露地栽培〉

- ・畝間等の停滞水は根腐れによる草勢の衰えや病害の発生につながるので、迅速に排水する。
- ・冠水した場合は、疫病や軟腐病が発生しやすいため早急に防除を行う。また、茎葉が泥水等で汚染された場合は、規定の範囲の量の薬液で洗い流すように防除する。
- ・土砂が流入した場合は出来る限り排除し、排水溝を掘って排水に努める。
- ・速効性肥料の施用や液肥の葉面散布を行い草勢の回復に努める。

4 果樹

- ・停滞水による根の機能低下が品質低下や裂果、生理落葉等の生育障害を招くので、停滞水がある園では、明渠などにより速やかな排水に努める。
- ・土壌流入が多い場合（堆積土5 cm以上）は、なるべく早く樹冠下の土砂を取り除き、根の呼吸作用を助ける。
- ・倒伏して根が露出した樹は、断根しないよう注意しながら、できるだけ早期に立て直す。立て直しが困難な場合は、根を土で覆うなど応急措置を行い、本格的な復旧は後日に行う。
- ・強風により打ち身やすり傷を負った果実は、軟化、腐敗が懸念される。収穫可能な果実は直ちに収穫し、食用、加工用、廃棄するものに区別し、適正に処理する。
- ・落葉や葉の損傷が大きい場合は、被害程度に応じて摘果を行い、果実品質維持と樹体の回復を図る。
- ・葉や新梢が損傷した場合は、安全使用基準に基づき、速やかに殺菌剤を散布する。

5 畜産・飼料作物

- ・土砂災害により、畜舎に通じる道路や圃場に危険が及ぶ恐れがあるので、降雨が収まってから、周囲の状況確認を行う。
- ・畜舎施設のライフラインを確認し、異常があれば業者に連絡する等すみやかな対策に努める。
- ・畜舎へ雨水等が入りこまないよう、畜舎周囲の排水路の点検整備や排水路の確保を行う。また、配合飼料・乾草等は、濡れて変敗しないよう、安全な場所に移動する。
- ・トウモロコシ等の飼料作物で収穫時期を迎えているものは、降雨による養分損出や高水分による品質低下の恐れがあることから、収穫を当分見合わせ、天候回復後に刈取りを行う。
- ・畜舎が冠水した場合は、天候が回復次第、泥の排除、水洗を徹底し、乾燥させた後消毒を行う。機械器具等も洗浄、消毒を徹底する。
- ・衛生環境の悪化により疾病等の発生が懸念されるので、家畜の観察を徹底し、異常が認められる場合は、すみやかに獣医師、家畜保健衛生所に連絡する。
- ・飼料作物の長期滞水は、生育遅延や根腐れを引き起こすので、滞水した圃場は排水溝を掘るなど、すみやかな排水対策に努める。
- ・泥を被った圃場の飼料作物は、基本的には刈り取り廃棄する。軽度の場合でも調製後に変敗するので、給与の際十分注意する。
- ・冠水などで土砂の混入した牧草をサイレージ調製すると劣化し易いので注意する。やむを得ずサイレージにする場合はギ酸などの有機酸を添加する。